

湯田小学校だより

平成 29 年 6 月 1 日
6 月 号
山口市立湯田小学校

第 1 回学校運営協議会…5月9日(火) 19~20時 湯田小学校・校長室にて



<湯田小学校学校運営協議会委員>

会 長 霜川 正幸 (山口大学教育学部教授)
副会長 中川 修 (湯田小学校PTA会長)
委 員 森原 久 (湯田地域交流センター所長)
増本 好夫 (湯田地区町内会連合会長)
谷 千賀子 (主任児童委員)
野稻 仁 (少年相談員)
三笠 浩一郎 (少年相談員)
其原 義信 (湯田小学校PTA副会長)
金重 宗香 (地域協育ネットコーディネーター)

第 1 回の学校運営協議会では、校長より「学校経営方針」について、教務主任、生徒指導主任より「1 学期の取組」について説明したのち、各委員から、次のようなご意見をいただきました。

- 小中連携では、互いの問題点を共有してほしい。問題点は、学校運営協議会でしっかり話し合いたい。
- 遅く来る子に声をかけている。声をかけるとうれしそう。10時まで寝るような意識付けが必要。
- 子どもたちのふれあいはあいさつに始まる。

家庭ごとに生活習慣も異なるが、声をかけることで変えられるのではないかと思う。

- 毎日、あいさつの声をかけ続けると、子どもから返ってくるようになる。
- 朝、大人があいさつの声を返してくれない。だから、子どもが返さないのではないだろうか。
- 子どもが誰かに世話になったら、保護者がお礼を言えることが大事。
- 子どもが、そういった話を、家に帰って話せるような家庭になってほしい。
- 子どもとボランティアで関わると楽しい。外で遊ぶ子が減って、子ども会への参加も少ないのは残念。
- 家庭や地域の問題は、簡単には解決しないが、自然体で向き合うことが大切。子どもが行事に参加することで、保護者もだんだん声を出してくる。地域の中で、「ひと・もの・こと」とかかわることのできる体験をサポートしていきたい。
- いじめなどの問題は、状況に応じて、警察と連携して解決することも必要ではないかと思う。

ユニセフ募金

毎年5月に、日本ユニセフ協会から、活動の様子と募金を呼びかけるチラシが配付されます。今年は、例年の数倍の善意が寄せられ、総額3,403円の募金が集まりました。おそらく、子どもたちが熊本地震など身近で起きる災害やそれに対する支援の様子を見聞きする中、あたたかい気持ちで育ってきているのだと、うれしく思いました。

今回の「緊急時引き渡し・引き取り訓練」は、全員参加です。やむを得ず、お迎えが遅くなっても構いませんので、ご参加ください。また、ボランティア協力者の募集も行っています。学校・家庭・地域が協力して、子どもたちの安心・安全を高めていく取組にしたいと思っております。ご協力をお願いいたします。